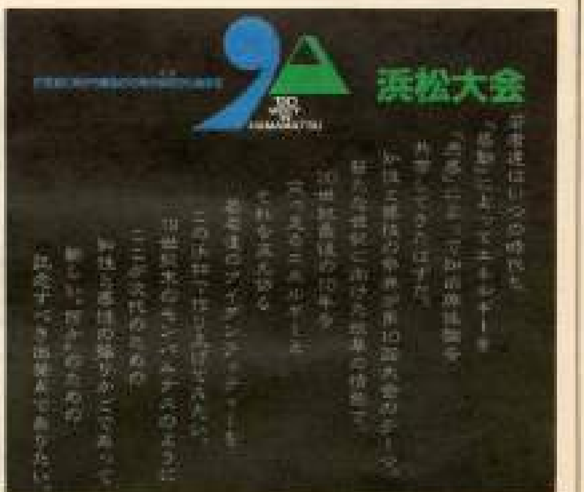
発行　全国商工会議所青年部連合会
東京都千代田区丸の内3－2－2
日本商工会議所中小企業振興部内
☎03－283－7847
編集　広報委員会

翔生
(しょうせい)

平成2年(1990年)
11月1日号
通巻 第9号
(年2回 3月・10月発行)

第10回全国大会、浜松で開催！

全国大会の会場となる「グランドホテル浜松」



16日 式典と「人、ふれあい、友情」懇親会
17日 アルビン・トフラー氏の記念講演

第十回商工会議所青年部全国大会は、平成二年十一月十六、十七日の両日、静岡県浜松市で開催される。[illegible]

[illegible]

記念講演の講師となるアルビン・トフラー氏

アルビン・トフラー(Alvin Toffler)　一九二八年、ニューヨーク大学卒業後、「フォーチュン」誌編集委員を務め、[illegible]。「未来の衝撃」、八〇年には「第三の波」を発刊、[illegible]

[illegible]

浜松市の概要
▽人口＝五三〇、三二〇人
▽世帯数＝一七一、八八〇世帯
▽面積＝二五〇・三三平方キロメートル
[illegible]

第10回全国大会スケジュール	
11月16日(金)	
AM7:30～PM2:15	全国大会協賛ゴルフコンペ
AM9:30～PM2:30	地場産業視察ツアー
PM3:30～PM4:30	登録・受付
PM4:30～PM6:30	式典
PM6:30～PM8:00	懇親会
11月17日(土)	
AM10:00～AM11:30	記念講演
	エクスカーション(県内観光ツアー)
11月18日(日)	
	エクスカーション(県内観光ツアー)
11月16日(金)	
PM1:30～PM4:00	第2回通常総会並総会

感性とエネルギー 知的興奮の大会に
浜松大会会長　神谷竹彦

[illegible]

いよいよ平成二年十一月十六日(金)、十七日(土)の両日、グランドホテル浜松で第十回商工会議所青年部全国大会「浜松大会」を開催いたします。

浜松の地域性を充分に発揮しようと、音・光・色を使った式典を計画しております。[illegible]

今、世界的に活躍中のアメリカの未来学者アルビン・トフラー氏を記念講演会の講師にお迎えいたします。アルビン・トフラー氏は一九七〇年「未来の衝撃」、一九八〇年「第三の波」を発刊した世界的に有名な未来学者です。[illegible]

全国青年部の自己紹介

手さぐりも、着実に地域に根ざす

先進地視察等を計画

埼玉県・浦和青年部
部長　小久保崇价

わが浦和市は、埼玉県の県都として県行政の中枢をなすとともに伸びゆく埼玉の中心として商業圏、文化圏においても大きな役割を果たしております。首都圏20km以内に位置することもあり、人口の増加に伴い急速な発展をしてまいりましたが反面、様々な面で歪みが表面化し、その対策に苦慮していることも事実であります。

全国の、そして埼玉県内の先輩青年部諸氏の指導を与え、各自の企業と地域社会の発展を目指し研鑽交流活動を進めている中、わが青年部も本年3月、親会に要望された60余名の会員をもって設立いたしました。設立4ヵ月を経過した現在会員も100名強に増員し、その全会員とともに各事業を推進するという主旨のもとに毎月例会を実施する一方、研修会、講演会および、親睦会を通じて会員同志の意思の疎通を図りながら、また、親会役員の皆さんの適切なご指導をいただきながら青年部らしい青年部になるべく基礎づくりに懸命です。毎月の例会参加者も各回毎に増え、親睦会等を通じて異業種の交流も活発に行われており、また青年部に対する要望等もその場で会員一人一人から聞くことが出来ますので、その都度役員会に取り上げて検討いたしております。今後は県内外の先進地視察研修会等も計画いたしており、一日も早く先輩青年部の皆様とともに活動出来る様頑張ってまいる所存です。

さて、明治4年に埼玉県の県都としてわが浦和に県庁が置かれ約1世紀が経ちましたが、現在では埼玉県の五大プロジェクトである「埼玉中枢都市圏構想」の中核となる"浦和ハートシティ"プランが策定され、21世紀に向けて中心市街地の都市基盤を整備し都心機能の集積を図るため、都心環状線や中心市街地へのアクセス線（骨格道路）の整備等が進められております。そして、高度情報化社会に対応したインテリジェントシティとして、またヒューマナイズされた新しい街として心にときめきを与える情報、文化の発信拠点機能を持つ快適性な都市として、緑と文化と伝統にあふれた人間性豊かな街づくりをめざしております。

浦和の街づくりに、地域社会の発展に私達商工会議所青年部がその中心的役割を果たして参らなければならないでしょう。

事業展開に2委員会

大阪府・吹田青年部
部長　田中　進

吹田商工会議所青年部は、平成元年12月4日、皆様の暖かいご支援、ご理解によりまして無事設立を果たしました。設立時60名であった会員数も現在では79名となり、青年部活動に励んでおります。

委員会は「総務」、「会員」、「広報」、「事業第1」および「事業第2」の5つを設けております。当青年部の目的といたしましては、企業経営についての相互研鑽活動、吹田商工会議所の活性化および地域社会への奉仕などを掲げており、これに沿って各委員会活動を行っております。「総務委員会」は総会、例会および役員会等の運営と当青年部組織運営の研究を行っております。「会員委員会」は会員の増強および会員相互の親睦、また「広報委員会」は年間4回の広報誌発行、広報活動および記録の作成、保存を中核に活動を展開しております。

「事業第1委員会」は経営経済・経営技術向上を目的として、公共保養施設・スポーツ施設利用ガイドの作成発行、視察・研修旅行の企画運営および商工会議所の活性化促進事業推進。また「事業第2委員会」は主に親睦研修を目的として、指導力研修会および経営研修会をそれぞれ年2回企画運営する他、「事業第1委員会」との共同事業として商工会議所活性化促進事業に取り組んでおります。平成2年度の予算額は1,000千円を計上しており、本年度より本格的な事業推進を行っていく所存であります。

わが吹田市は大阪府の北部に位置し、南は大阪市、西は豊中市、北は箕面市、東は茨木市および摂津市に隣接しており、高速道路網や鉄道網も整備され、大阪市都心部より10km圏という交通至便な条件下にあります。

また、当市は昭和15年に約6万3千人の人口で市制が施行され、その後千里ニュータウン等の開発を経て、面積は36.11平方キロ、人口は34万9千人（昭和60年）となっています。昭和45年に万国博覧会が盛大に開催されたことは、皆様もご記憶がおありのことと思います。何分、設立後まだ日も浅く未熟な私どもですが、諸先輩方のご指導、ご理解を賜りたくここにお願い申しあげる次第でございます。また、お近くにお越しの節は、是非お気軽にお立ち寄りくださいますようお願い申しあげます。

新都市建設を目ざす

埼玉県・深谷青年部
会長　関根康男

私たちの住んでいる深谷市は、埼玉県の北部に位置し、首都圏、東京の中心から約70キロメートル圏内のところにあります。そして、交通はＪＲ東日本鉄道高崎線（深谷駅）があり、幹線道路では国道17号線が市の中心地を東西に走っております。

産業面では農、工、商の均衡のとれた発展を遂げておりますが、中でも工業面ではテレビ、ビデオ、アルミ製品、冷凍設備などを中心に生産が盛んで、第三工業団地まであります。一方、地場産業としては、粘土製品である[illegible]と瓦があり、また、繊維製品では、婦人、子供服等の縫製が盛んで、昭和62年度の埼玉県下40市の中の工業出荷額では、第5位の4,779億円にも達しております。また、農業面では特産のネギ、ホウレンソウ、キュウリなどの野菜やチューリップやゆり、きく等の花卉園芸が盛んで全国的にも有名であり、その収穫量は81,300トンに達し、生産高は埼玉県内第1位を占めております。商業面からみると、販売額は、昭和63年の調査では埼玉県下第14位で、その額は1,454億円であり、商業活動も盛んであると言えます。

深谷商工会議所は昭和23年に通商産業大臣の認可を受け活動を開始しましたが、地域経済発展の要として、市全体の指導的、中心的役割を果してきていると言えます。

現在、商工会議所は最も充実した時期にきていると思われ、その組織率は平成2年度の会員増強運動の結果、会員の50%台を突破して53%に達し、その活動の状況は益々発展化の傾向を示していると言えます。

当青年部は、本年1月に会頭の指示で部員募集活動を行いましたが、その結果、現在では120名の部員により運営されております。

青年部の当面の課題は、商工会議所活動への理解と参画、そして行政への関心を持つことであり、併せて街づくりの計画への参画のために調査、研究、勉強会を行い、青年の主張に広く理解を求め、会報を介して新鮮な提言要望を行っていきたいと考えております。

最後に、先輩青年部および各界の皆様のご指導とご協力をお願いし、深谷商工会議所青年部の紹介に換えさせていただきます。

経営者訪問を計画

愛知県・岡崎青年部
会長　日比谷泰三

徳川家康公の出生地として知られる「城下町」岡崎市は、愛知県のほぼ中央に位置し、石製品、三河仏壇や繊維製品、花火、八丁味噌などの地場産業と、自動車産業、機械工業などがバランスよく発達した、人口30万人の水と緑に恵まれた西三河の中心都市です。

岡崎商工会議所は、岡崎市制を遡ること24年、明治23年に全国10番目、県下3番目の商工会議所として設立され、きたる平成4年には、家康公生誕450年と併せ記念すべき創立100周年を迎えようとしています。

このような中、100周年に向けての組織強化の意味あいも含め、岡崎商工会議所青年部は、地域の活性化、国際化および新しい時代に対応できる人材の育成を主目的に、平成元年5月1日、25歳から50歳までの次代を担う若手経営者、後継者110名（2年4月1日現在127名、平均年齢38歳）が集い設立されました。組織は、会長はじめ21名の役員のもと、全会員が各委員会に配属されています。

委員会は3つの活動目的に応じて総務、調査広報、企画研修、企画研究、企画交流の5つが置かれ、それぞれ与えられた活動内容の他、例会の担当（毎月の例会は各委員会の持ち回り制）、意見交換、情報交換、研修会、親睦会等について、各委員会の独自性を持って行っております。毎月または隔月で開催されるこの委員会活動が、青年部会員相互の交流・啓発、研鑽活動の中心的な場となっています。

何分にも当青年部は誕生してまだ1周年を迎えたばかりで、初年度は手探りの中、会員手帳の作成、会員ニーズ調査ならびに意識調査の実施、他青年部活動視察などを実施し、今年度に入りようやく広報紙「青年部だより」を創刊することができました。今後は昨年実施した会員ニーズ調査結果等に基づき、会員の青年部に求めているものを積極的に取り入れ、会員相互の交流の場づくり、経営者として必要な資質を高めるための経営者訪問、[illegible]研修他の各種事業、その他地域活性化のためのイベント開催等、ひとつずつあせらず、じっくりと取り組み、草創の当青年部の足場をしっかりと固めていきたいと思っています。

なお、2年後の平成4年、岡崎商工会議所創立100周年に併せ、商工会議所青年部運営研究会の岡崎開催を計画していますので、皆様のご支援、ご協力をこの場をお借りしてお願い申しあげます。

部員の増強を図る

北海道・恵庭青年部
部長　前田和明

市制施行20周年という記念すべき年に、全国で410番目、道内では41番目の商工会議所の仲間になり、青年部も商工会議所青年部として、地域振興等に活動の第一歩を踏み始めたところです。当青年部は部員数29名（4月現在）、総務、研修、事業の3委員会で構成され、本年度は、部員の増強を図ることを最大の目標課題としております。

恵庭市は、恵まれた地理的条件や積極的な地域開発の推進により、道内で屈指の人口増加率を誇る未来性豊かな青年の街として、目覚ましい発展を遂げております。さらに、当市は小樽、石狩湾から札幌、そして千歳、苫小牧に至る道央ベルト地帯の中央に位置し、隣接する北海道の空の玄関千歳空港や港（苫小牧港や石狩湾新港）を結ぶ、優れた交通ネットワークを持っております。

恵庭市ではこうした地の利を生かし、国際的な物流拠点として積極的に産業開発の推進を図っており、現在では恵庭ハイコンプレックスシティ構想のもとに恵庭リサーチ・ビジネスパークや恵庭テクノパークなどが活動を開始、先端技術を駆使した研究や生産の拠点として、大きく飛躍しています。恵庭市は、また、清らかな流れと豊かな森林を保全し、人間のパワーと自然とが共存する新しい創造的な文化の創造フィールドとして、潤いのある住宅地として、豊富な工業用水に恵まれた産業の街として、また、新しい社会の動向と地域の急激な変化とそれに伴う消費者ニーズの多様化に対応した個性的で魅力ある街として、そして市民の交流と文化の学習としての都市機能の重要な役割を担うコミュニティ・スペースとしての新しい街づくりを進めております。

最後に、全国の商工会議所青年部員の皆様のご健康とご繁栄を御祈念申しあげまして、入会の御挨拶に換えさせていただきます。

生き様を語り合う

愛知県・豊田青年部
部長　内藤明文

『おいでん、見りん、踊るまい。おいでん、見りん、踊るま〜い。』アップテンポの総踊りソングが流れます。駅前ロータリーから続く通りを埋め尽くしたん、人、人。こだまする歓声、ほとばしる汗。"豊田おいでん祭り"総踊りのエネルギーが爆発です。その中に今年も一際楽しくにぎやかでパワフルな揃いのハッピ姿の群れが見えます。私たち豊田商工会議所青年部です。

私たちが商いを営んでおります豊田市は、愛知県のほぼ中央部に位置し、現在290㎢の面積に約30万人もの人々が暮らしています。市の中央を北から南へ矢作川が流れ、市域東部、市内最高峰の[illegible]から猿投山へと山々の連なり、またあちこちに田園風景が広がって、大きく豊かな自然が包みこんでくれるような「水と緑の街」です。

何よりも世界有数の自動車産業の本拠地としてご存じの方も多いと思いますが、名鉄三河線豊田市駅の西側に東海地方初の"そごう"を再開発のメインとして迎え、また、東側も"ユニイ"をキーテナントとしての再開発が進められ、個性化を打ち出すそれぞれの商店街とともに、"車の街"工業都市豊田市は"商業の街"としても大きく変貌を遂げつつあります。

私たち豊田商工会議所青年部も歩みを始めて5年目を迎えました。総務・親睦・広報・研修・教養・事業の6委員会が、役員会の下に広報紙「翔生」の発行、それぞれの生き様を語る「恥をかこう会」、「海外視察研修」、「豊田おいでん祭り」「商工フェア」への参加など、93名のメンバー各々の個性を持ち寄っての事業を企画し、頑張っています。そろそろ何とか乗り切ることができるかなといったところですが、会員相互の交流も進み、互いが腹を割って話せる雰囲気が生れてきて、これを大切に育てていきたいと考えています。20代から40代までのいろいろな職種、幅広い年齢層を持つ青年部ならではの個性ある活動から、そのアイデンティティを造りあげ、地域に根ざした活動を通して私たち青年部の役割を自覚し、その存在意義を明確にアピールしていかなければならないと思います。そのために、何よりも大事にしていきたいのは、青年部らしい何物にも制約を受けない自由な発想、旺盛な好奇心、そしてパワーあふれる行動力です。

次代の商工会議所を担う者、それが、我々商工会議所青年部の使命ではないでしょうか。

全国青年部のイベント紹介

地域活性化、イベントの担い手に

要性を強く感じ、市民の手により市民が憩う「市民の森」、そして全国でも有数の桜の名所として「桜の園」にすべく、市とともに「FUKUIさくらルネッサンス」事業を開催しました。

事業内容　福井市の中心に位置する足羽三山（足羽山、兎越山、八幡山）にソメイヨシノ・ヤマザクラ等・桜3,000本を植樹した。
○市民植樹祭……平成元年11月19日（日）
○桜のご案内……平成2年4月8日（日）

青年部名：新潟県・村上

会長名：山ノ井 一夫
行事名：村上商工会議所創立40周年記念事業 第3回市民青空バザール '90ミスMURAKAMIイメージガールコンテスト
日時：平成2年5月27日（日）
行事内容：イヨボヤ会館イベント広場において、村上商工会議所青年部主管により村上商工会議所創立40周年記念事業の一環として第3回市民青空バザールが開催されました。当日は、雲一つない好天に恵まれ、およそ1万5千人の観衆で賑わいました。

今回は特別企画として'90ミス村上イメージガールコンテストが行われ、18名の出場者の中から、ミス村上1名と準ミス村上2名が、会頭、市長そして当日の来場者58名の審査により選ばれました。

その他、小学生以下の「パンダさんとのジャンケン大会」、村上お中こ劇場の「マジックショー」、特賞劇引き大会、賞品などが当たる抽選会などが行われました。

バザール出店は41店舗で例年並みでしたが、晴天に恵まれたことやミスコンテストがあったことなどで午前中に完売になった店もあり、大変盛況でした。

青年部では、この市民青空バザールを今後も継続、実行して行きたいと決意を新たにしています。

青年部会：青森県・青森

部会長名：中村 公英
行事名：安方みなとまつり'90
日時：平成2年7月28日(土)～29日(日)
行事内容：青森の活性化のために、海から生まれたこの町にもう一度海を取り戻そうを合い言葉に「安方みなとまつり'90」を青年部が主催。

早朝から深夜まで丸2日間、みなとまつり会場に3万人を超える人出を集めた。

イベントの中心は、陸上では「新能」の上演、海上では「ジェットスキーレース」を始めとするマリンスポーツと、各種イベントが多彩に展開された。

新能は、中世青森のうとう・やすかたを舞台にした能「うとう」が上演された。古来各地で「うとう」は上演されてきたが、本来演じられるべき地で遂に実現できたのは夢のようである。

この他ミスユニバースとの写真撮影会、ユズモ・ナニーのシンセサイザーとレーザー光線によるサンセットコンサート、ねぶた運行などが行われ、会場を熱狂に包んだ。

青年部名：栃木県・真岡

会長名：石田 博
行事名：真岡線にSLを走らせよう
日時：平成2年4月
行事内容：真岡は、NHKの大河ドラマ「春日局」の夫君、稲葉正成公の終焉の地であることから、市では昨年、テレビ放映に便乗して知名度も希薄な「もおか」を全国的にPRしようと、約1億円を投じて「春日局ドラマ館」や「稲葉正成館」を特設した。その結果、全国各地から延べ15万人の観光客が訪れ成功のうちに終了したが、しかしこのビッグイベントも一過性のものである。

このため、当青年部では「春日局」に続き、平成2年度の街の事業に「真岡線沿線の観光開発と地域活性化」に取り組むことを決め、特別委員会を設置した。まず、委員会の仕事は「真岡線に走らせるSL」を探すことにあり現在、市内の鉄道ファンやSLの愛好者たちが中心になって結成した「真岡線にSLを走らせる会（会員250名）」とともに、国内はもとより遠くは海を越えて台湾、中国まで足を伸ばしSLの情報集めに奔走している。最終的にはSLを購入して、定期的に走らせる構想である。

真岡線は、茨城県下館駅から陶芸のまち益子を通り、終点茂木駅までの42kmを結ぶ単線で、赤字ローカル線ということで一時は廃線の危機に見舞われたが、住民の強い要望で62年4月に第3セクターによる真岡鐵道に生まれ変わり、現在通勤通学の足としてレールバスが走っている。かつてC―12型の蒸気機関車が走っていたが、昭和45年を最後にその姿を消した。

「SLを走らせることは夢を実現するだけでなく、街づくりのきっかけになる」という訴えに、沿線の3商工会青年部も賛同。1市3町議会共同体を互いに認識し、地域活性化に向けて協力することで合意した。また、この事業を成功させるには地域住民の協力が必要であるため、機運を盛り上げるための写真展や映画の上映会等のイベントも企画している。

緑土の田園の中、煙をたなびかせて走る蒸気機関車の勇姿を再び見ようという夢にかきたてられ、"SLの走る街―真岡"を新しい観光資源にしようと、わが青年部は動き出した。

青年部名：福井県・福井

会長名：林 逸男
行事名：FUKUIさくらルネッサンス
日時：平成2年秋
行事内容：福井商工会議所青年部では、これまで「市民の広場」事業を通し、福井市民の①自然と親しむ場、②人々の集う場、③ホスピタリティーの場として、都市の中の緑の空間として貴重な存在である足羽三山の特性、整備の必要性を訴え「市民の憩う森」づくりを提案してまいりました。

現在、足羽山、足羽川堤防を中心として福井市の桜の名所が形成されております。これらの桜は、戦災により焦土と化した福井市の街並みの復興とともに緑を蘇らせる運動として福井商工会議所と福井観光協会が主唱し、市民の浄財により植えられたものです。しかし、現在老齢化が進んでおり、寿命もあと数年と言われております。

そこで、平成元年度、市制100周年を契機に、福井市のシンボル的存在であり緑豊かな足羽三山を、整備する必

青年部名：佐賀県・鹿島

会長名：石橋 英司
行事名：「今、鹿島は燃えている！」WE LOVE ガタリンピック
日時：平成2年5月5日（土）
行事内容：昭和50年、新幹線や高速道路と言った高速交通網体系からキレイに外れた【陸の孤島】鹿島市の若者達の中に、「このままでは愛するふるさとが数日になる！」と言う機運が生まれて来ました。私達は「ただ手をこまねいて《鹿島衰退》の日を見るより、いま、自分達が出来る最大限の努力をすべきだ！」と立ち上がりました。

昭和60年3月、我々が最も愛着心のある《有明海》に【海浜スポーツ公園】が完成しました。「これを誇とし我々の手で企画しよう！」との提案があり検討を始めましたが、例会では名案が浮かばず後の【飲みにケーション】の場に議論は持ち越しました。飲みながら議論議論の中、誰かが「海の上のオリンピックがよいヨ！」と言ったのがきっかけとなり、天下の【奇祭】の宣伝マンが絶賛した『ガタリンピック』と言う名前が誕生したのです。その時、我々には日本一ユニークなイベントとマスコミにはもとより、全国津々浦々の人々に愛されるイベント『ガタリンピック』が産声を上げたとは想像もつきませんでした。

今年開かれた、第6回大会では、鹿島市の人口の1.5倍である3万人もの観客数を記録しました。マスコミもNTV「独占スポーツ情報」「ズームイン朝」、NHK衛星第1放送等、今まで鹿島とは縁遠いメジャーな番組がこの他にも不可思議なイベントを取り上げてくれました。

取材の回の多さに、窓口の観光課も嬉しい悲鳴を上げている昨今です。さらに、このイベントにあわせて、約300人前後の外国人ホームステイも行っております。

このイベントは我々に沢山のことを教えてくれましたが、その最たるものは《心の豊かさ》と《団結力の尊さ》でした。「何もない！」と言うのは簡単ですが、日本一田舎の県の、そのまた田舎の鹿島市民が「何もない！」と文句一つ言わずに、愛着心のある大自然を有効に利用し、日本の行事の最高峰とも言えるイベントを創り出したのです。もし鹿島市に色々と便利な物のあったなら、逆にこのような奇想天外な発想は生まれなかったのではないでしょうか。

ガタリンピックのメダリストは、いまや鹿島のスターなのだ

平成2年度(11月～3月)スケジュール

11月	16日(金)～17日(土) 第10回全国大会 [浜松]	16日(金) 第13回通常会員総会 [浜松]	16日(金) 第47回役員会等 [浜松]	・機関紙「翔生」(第9号)発行
12月			4日(火) 第48回役員会等 [東京]	・平成3年度役員との懇談会　4日(火)[東京] ・平成3年度役員第1回打ち合わせ会および平成3年度正副会長第1回会議　5日(水)[東京]
3年1月			19日(土) 第49回役員会等 [松江]	・平成3年度役員第2回打ち合わせ会　19日(土)[松江] ・平成3年度正副会長第2回会議　20日(日)[松江]
2月		7日(木)～8日(金) 第8回中央研究会 [東京] 8日(金) 第14回会員総会 [東京]	7日(木) 第50回役員会等 [東京]	・平成3年度正副会長第3回会議　7日(木)[東京] ・平成3年度役員第3回打ち合わせ会　8日(金)[東京]
3月				・機関紙「翔生」(第10号)発行　1日(金)

青年部名：島根県・松江

会長名：奥 謙吉
行事名：水郷祭
日時：平成2年8月4日（土）～8月5日（日）
行事内容：商工会議所が主催する水郷祭に協力し、水辺の街に出店する。かき氷販売、コカコーラ販売、バザーをし、会員相互の連携を図りながら、親睦を深める。

青年部名：秋田県・大館

会長名：伊東 良和
行事名：大館大文字まつり
日時：平成2年8月16日（木）
行事内容：北国の夏まつりは短いほか熱狂です。毎年8月16日には市の目抜き通りである大町中央通りはまつり一色に。歩行者天国となった通りを浴衣がけの人びとが行き交う。勇ましい「囃子舞」、そして闇の訪れに輝く明に、それよりも鮮やかな「一万人踊り」……。やがて夜8時闇をさいて宙に浮かぶ「大」の文字。鳳凰山の山肌をこがす大文字焼です。

全国青年部の自己紹介

地域振興に期待高まる

政界人の講演例会

福岡県・久留米青年部
会長 久間博光

玉島まつりを主管

岡山県・玉島青年部
事務局 横田謙介

神功皇后行列を担当

佐賀県・武雄青年部
部長 緒方正則

動ける組織づくり

鹿児島県・川内青年部
部長 外園俊明

平成2年度ブロック別運営研究会レポート

分科会中心に地域の特色を出す

ブロック大会の開催地と日程

ブロック名	開催地	開催日
北海道	遠軽・遠軽	[illegible]
東北	福島・郡山	[illegible]
北陸信越	新潟・[illegible]	[illegible]
関東	埼玉・大宮	[illegible]
東海	愛知・春日井	[illegible]
近畿	京都・京都	[illegible]
中国	岡山・津山	[illegible]
四国	高知・中村	[illegible]
九州	沖縄・宮古	[illegible]

北海道ブロック

東北ブロック

北陸信越ブロック

関東ブロック

東海ブロック

近畿ブロック

中国ブロック

四国ブロック

九州ブロック

「アジア経済圏」を実感

団長・商青連会長　小林幹生

アジアが大きく変化し、また躍進から注目を集めつつあります。「二十一世紀はアジアの時代」と言われはじめております。日本だけが変化しているだけでなく、タイ、シンガポール、インドネシア、マレイシアなどアセアン諸国も次の主役の座をねらってめざましい成長を遂げつつあります。

平成二年度商青連のスローガン「明日の世界へ新しい時代の開拓者」は、まさに明日をみつめたスローガンです。[illegible]

[illegible]

商青連42名の経済視察報告

ASEAN4カ国訪問

中小企業の海外進出の可能性を深る

海外研修特集

燃えたつきっかけ、友情の輪が生まれた？

様々な体験、人との出会いから参加した42名の青年経済人は大きな収穫を持ってそれぞれの地へ帰っていった。このメンバーの中から次々と経済進出、人的交流を実現していく経済人が出てくると予感させるツアーであったと感じた。

訪れた国で知ったアジアの現状、経営者の苦労、そして夢。現場から直接交流を実現しようと考えている42名の団員は出会った現地の経営者の生の声に何かを感じたはずである。

バンコク（タイ）

[illegible]

シンガポール

[illegible]

ジャカルタ（インドネシア）

[illegible]

クアラルンプール（マレイシア）

[illegible]

ジャカルタのSOGOをバックに、商青連視察団の元気な顔が並ぶ

みんなで歌った青年部の歌

東南アジア経済視察団の日程

平成二年七月五日（木）〜十二日（木）

企業進出にはコンセプトを

五味隆仁（坂出青年部）

[illegible]

心で滅びる日本人を感じた

岩佐謙三（小野田青年部）

[illegible]

本音が出た飲みニケーション

神谷竹彦（浜松青年部）

[illegible]

青年部会員の主張

一人の百歩より百人の一歩
例会は真の友人をつくる場

美唄青年部　長岡正勝

美唄青年部
長岡正勝

このたび、商青連の活動委員会より「青年」への寄稿を依頼されましたことは真にありがたく思っています。

「翔三」は全国商工会の青年部活動の活性化を図り、会員青年部の情報交換を促すとともに、商青連活動を全国の会員に伝えることを目的としておりますので、私は北海道・美唄の青年部がどの様な活動をしているか、会員青年部の皆さんの参考になれば幸いと思うのであります。

今から七年前、昭和五十九年五月、十四人の設立準備委員の汗の結晶を設立総会にて発表させていただきました。

「低迷する経済状勢の中にあって、我々中小企業の使命は、現状維持に甘んじることは許されないこと、社会生活に密着した活動事業等の要素も大きなものがあります。この時こそ、我々青年の柔軟ある行動力こそが活力を創出しなければなりません。

組織化社会と呼ばれる今日、あらゆる分野において、先輩の人々が積み上げた経験と豊富な知識をもって第一線で活躍されていることは、真に心強く、心から敬意を表するものであります。

しかし、その反面、青年層の意志発現の場、活動の機会が決められていることも否定できません。

新しい社会、新しい時代に対応するためには、真に情報こそ、それによって生み出されるアイデアや行動力が期待されております。

経営環境が益々厳しくなる当地において、企業の安定を願い、「明るく、住みよい」街づくりのため、青年層が広い視野に立って、お互いの交流を深め、識見の向上に努め、潜在する能力を最大限に発揮するとともに、商工会議所事業の運営に参与することは勿論、美唄市経済発展への「新しい風」となるべく美唄商工会議所青年部を結成するものであります。

こんな内容でした。当時の予想を大きくうわまわる六十九名のメンバー、活気に満ちた青年部となり、美唄に新しい風が吹きはじめたのであります。

今迄に、各地域の青を図り、組織の強化と会員の資質向上、連帯感の高揚、研修等を目的に、例会を開いていましたプログラムは今日では固定化しない、事業と研究、親睦と交流、現状と将来、即時と未来、etc……。相反することも起承転結に組み合っているこの時代、企業経営を取り巻く環境は厳しくなっていくでしょう。

この環境は、時を待っては経過するのでしょうか、現状から自らを変化させることにより時代に追随していかれないと肝に銘じておかなければならないのです。

自らの変化をどうするか、これが青年部の活動理念の実現を推進するものであります。会員同志が持っている知恵を出し合い、協力業の良い点をヒントに、自分の企業にあうように工夫し、それを実行してみることです。しかも学会員が同時に行動を起こすべきであります。

一人の百歩より百人の一歩の方がどんなにも強いレベル、組織の活性化につながるかお判りと思われます。皆さんなで、まず始めようではありませんか。

最後になりましたが、例会に出席する心構について、次の様な言葉を記憶にとどめております。

「例会は例のあった友人に煩わしいものではない、意義深き真の友人をつくる場にこそ例会は…」

私も残された期間、今力を入れ青年部活動に参画していきたいと思っています。

「青年団体懇談会」を設立
例会で自己研鑽の体験発表

教育青年部　河瀬一治

私達の教育部上部団体青年部協議会は昭和五十四年に設立されて、今年で十一年目を迎えました。地域経済の健全な発展に積極的に参画する商工会議所の一翼を担うものという基本方針のもと研修会、イベント等様々な活動を実施し、親睦や交流をいただきながら現在に至っております。

設置市は人口六万七千の地方都市であり、古くから炭鉱として、また交通の要所として栄えてきたところであり、その影響もあってか人口の割りには事業所は多く、三百社以上が会議に加入しています。しかし、青年団体数は五十名と小規模で、会員増強も課題の一つとなっております。

活動としては会員事業所の見学会、「青年部研修会」、自己研鑽につながる「体験発表」等を月一回の例会で行っていますし、新年例会や定時総会では、講師の先生を招き講演会を開催しています。また、関連の諸事業の協力、つまり祭りの協賛事業、会員相互の懇親会の開催をはじめ、年忘れ懇親ボーリング大会等を行っております。

そのような中、昨年、教育青年会議所のメンバー相互に、他の二つの単位団体をお願いして四団体で「青年部任意懇談会」を設立しました。

定期的な会合やスポーツを通しての親睦会の中で各団体の悩みや今後の運営、これからの町づくり等について話し合いを持っているところです。

いろいろの問題を議論し合い、相手の話を聞き自分の考えをぶつけ合う中で、自己と自分が研ぎ澄まされ、個人の資質向上に繋がっていくものと思います。

個性の強い経営者ほど成功
世代交代をビジネスチャンスに！
――青年経営者5,000人調査から――

法政大学経営学部教授　川喜多　喬

いま、戦後、復興期から高度成長期にかけて急増した中小企業の世代交代期を迎えている。ちょうど、ベビーブーム世代がいっせいに四十歳を超え、その親が七十歳を超え始めていることが大きな契機になっている。

しかし世代交代は、家族内の後継者によって行われているわけではない。すき間風・倒産法場をニュービジネスとして開拓する創業者まで、広義な意味を個人としても法人としても管理する触を持った管理職層も、その一翼を担っている。

ところで、日本商工会議所では平成元年度において、全国商工会議所青年部連合会に加盟の各地青年部会員に対する青年経営者（創業者および後継者）を対象に、経営意識等についてのアンケート調査を行った。四千九百七十人から回答があったが、その結果わかったことを紹介しよう。

①創業者に比べ、家族内後継者はより伝統的な業種に偏し、同じ年齢層でも、創業者の方が経営トップとしての実権を握って行動しているのに、完全に自立して経営者としての機能を行使している者がより少なく、資産には満足するが経営者としての多面的な努力に関する自己評価は低い。

②家族内後継者のうち、後継に当たって「ぜひ継ぎたかった」としている者は二十四%だけである。逆により早く後継を自覚した者ほど、現在の経営状況もよい。それまでの計画も自覚的・体系的であるということもできるとき、青年経営者は自分の後継者に対し、この「経営能力」の伝承を願うべきであろう。

③家族内後継者のうち、後継に当たって「ぜひ継ぎたかった」としている者は二十四%だけである。逆により早く後継を自覚した者ほど、現在の経営状況もよい。それまでの計画も自覚的・体系的であるということもできるとき、青年経営者は自分の後継者に対し、この「経営能力」の伝承を願うべきであろう。

④青年経営者には、基本的な価値観の違いによる経営課題として認識する傾向が強い。家族内後継者の場合、経営者が30歳前後も若すぎることを理由に、思い切った経営転換、新事業、新業態、転業、業態転換、移転など一で、経営を一気に革新するチャンスがあると言えよう。しかしそのためには、経営者の青年経営者の勉強は、経営の経営技術だけではなく、時代を読み切るスケールの大きいものでなければならないことが必要になっているわけである。経営者は、冒険を伴うもののハングリー精神でその先頭に立っている。青年経営者は、経営組織の近代化を担う。家族内後継者だけでなく、こういう志操を持つ時代を学ぶある動力が期待。

⑤若さに満ち青年経営者には、立地条件と共の地域経済の変化に関する敏感さが強い。経営組織をいくる指導にしても、地域の経営力や地域集合の集積効果が満ちていくとすれば大問題である。青年経営者の経営意識と地域再活動との連結が重要であろう。しかし、地域だけを見ていて、地域集団の方向を決める発言が育つわけでもない。地域を活性化するためにも、国際社会の動向をも視野に納めるべきだ。

⑥いくらそうなることを言っても、自分の力で経営をのばすことができない経営者は、尊敬されてはならない。時の流れで、時が早い音楽と同様で、青年部内の序列が形づくられるとすればもっての他であろう。青年こそ、自分の力だけで勝負するという自負心を持つべきである。その点から、多種多様な個々人々の個性的集合を青年部活動は大切にすべきで、しばしば見られるような時代錯誤したため、地位・肩書がどうかとか、年齢至上がどうかとか、年齢至上ということでの区別は廃するべきであろう。しばしば商工会議所はアウトサイダー扱いされている観点から生まれる。青年部活動は優れたアウトサイダーをインサイダーに仕立てて、組織化活動に引き入れねばならない。それが青年部活動に魅力をつけねばならない。そのためのアイデアが、実は自分の経営組織に魅力をつけるために役かせるはずである。

⑦青年経営者が経営者としての自覚を育てることは必要だが、従業員をも「――特に若い従業員を――」経営をのぼす者だと感じてきなければ、組織の強化に貢献できると信じる。

翔け世界へ、新しい時代の開拓者

各委員会レポート特集

組織強化委員会

組織率向上にむけ会員勧誘のパンフ作成

組織強化委員会では、今年度の事業計画のトップにあげられた組織率向上を最重点課題として捉え活動を推進している。

全国四百九十六会議所中、青年部の設置率は六八・二%で未組織の所が百九十八地区にあたっている。さらに全国二百二十八の青年部のうち、商青連への加入率は七八・一%となっている。このため、青年部設置の働きかけと同時に、商青連加入に向けた二つのアプローチが必要になってくる。

そこで、今年度は初めて会員勧誘のためのパンフレットを作成し、我々商青連の活動を積極PRしていく方針で準備を進めている。

ブロック大会では「いま一度語ろう青年部」をテーマに総合的な視野から組織を語り合い、これら意見を吸収しながら、商青連の役割とは何かを再確認している。こうした討論の中から、次代を担う青年活動家にとって商青連が必要不可欠な組織という認識の高揚がいかにタイムリミットまでに結集するかという問題だけです。

私達の商青連も創立八年を経過し、綱領・指針もうたわれ、会員の意識統一も徐々に確立され、組合議所や対外的にもその存在意義が認識されつつあります。それら高揚の中にあって広報委員会としては、遅まきながら商青連の組織として、真の広報活動とはいかにあるべきかを真剣に議論し、実行すべき検討を加えていきたいと思います。

広報委員会

「生きた動き」伝えたい

広報活動の強化がいかにタイムリミットまでに結集するかという問題だけです。

私達の商青連も創立八年を経過し、綱領・指針もうたわれ、会員の意識統一も徐々に確立され、組合議所や対外的にもその存在意義が認識されつつあります。それら高揚の中にあって広報委員会としては、遅まきながら商青連の組織として、真の広報活動とはいかにあるべきかを真剣に議論し、実行すべき検討を加えていきたいと思います。マスコミ等を利用した対外広報活動は大きく、難しいものがあります。また対内広報の中心となるこの「翔生」も、全国の会員の皆様にご参加いただけるように、商青連の生きた動きをお知らせし、ご意見をいただける様なレポート等も掲載できないものか、委員会員で知恵を絞って研究中ですので、会員諸兄姉の各位も遠慮なく、忌憚なく広報委員会にご参加いただければ幸です。

（広報委員長　青克由）

特別委員会

特別委員会では日本生産性本部「CI（Corporate Identity）の導入と活用の推進」について、商工会議所青年部の「理念」「ロゴ」等を活用し市や団体からも認められる第十回大会で発表できるよう様々な角度から検討を重ねてきており、これまでの活動状況を報告します。

CI導入のきっかけと目的

国際化の進展や複雑・多様化する経営環境のもと、全国大会第十回大会をきっかけに商工会議所青年部が社会的に認知されるアイデンティティを確立するため、CIを導入する。

CI作業の洗い出しとスケジュール

青年部の簡略名称等検討

ル

作業として、①商工会議所青年部のコンセプト②組織名称、愛称③ロゴタイプ④コーポレートカラーを設定して全国大会で発表し、これらの結果を広めるためのパンフレットを制作することにした。

なお、シンボルマークについては商工会議所マーク、また、コーポレートスローガンについては「綱領」「指針」があることから、今回つくらないことにした。

CIイメージ調査の実施

商青連加入二百四十五青年部（平成二年三月現在）に対して、現在の商工会議所青年部の持っているイメージと思いたいイメージ（望ましいイメージ）を調査し、今後の商青連の組織・運営等の検討資料とする。

調査項目

1. 商青連加入の有無
2. 商青連加入の理由
3. 商青連加入の時期
4. 商青連加入の決定機関
5. 商青連加入の決定者
6. 商青連加入の決定方法
7. 商青連加入の決定時期
8. 商青連加入の決定理由
9. 商青連加入の決定者
10. 商青連加入の決定方法
11. 商青連加入の決定時期
12. 商青連加入の決定理由
13. 商青連加入の決定者
14. 商青連加入の決定方法
15. 商青連加入の決定時期
16. 商青連加入の決定理由
17. 商青連加入の決定者
18. 商青連加入の決定方法
19. 商青連加入の決定時期
20. 商青連加入の決定理由

（委員長　大堀智雄）

研修委員会

国際化へ海外経済視察団

本年で創立八年目を迎えた商青連は、「翔け世界へ、新しい時代の開拓者」のスローガンのもと地域経済の活性化、国際化を展開してきた。その一環として、新たな経済対象国として注目を集めている東南アジア諸国へ研修視察団を派遣した。視察国は、中小企業の海外進出の可能性を探る、を目的とし、各地の進出日系企業を訪問し視察した。

また、現地の日本人商工会議所をはじめ進出日系企業の幹部の方との懇談会を設け、意見を聞き交換してきた。

総務委員会

今後の基本ルールづくり

商青連は、発足以来十年の年月を経過して来ているが、商青連へ加入する青年部も多くなり、時代に合った新たな会革をすすめられているのではないかと思われる。

このような環境の中、日本経済が世界の中で目まぐるしく変化し、国際化の進展や情報化・多様化する経営環境のもと、地域の商工会議所の果たす役割がいま問われている。時代の流れを正しく認識し、商青連の今後のあり方を真剣に考え、基本ルール作りをして、各商工会議所青年部と歩調を取れる組織作りのため、総務委員会は次の事業に取り組みたい。

1. 全国大会の開催地および開催要綱の協議
2. 商青連役員選出規定の見直し
3. 青年部設置に関するマニュアル

（委員長　伊藤隆）

商工会議所青年部の設置状況（都道府県別）

第2回全国大会時のうち、330商工会議所に設置（設置率：68.1%）

ブロック名（設置数／率）	都道府県名（設置数／率）	会議所名（設置年）
北海道 (1/1) (100.0%)	北海道 (1/1)	北見（昭和五十四年）
東北 (26/42) (66.7%)	青森 (2/3)	青森（昭和五十八年）、八戸（平成元年）
	岩手 (1/6)	一関（昭和五十九年）
	宮城 (3/3)	仙台（昭和五十四年）、石巻（昭和五十五年）、気仙沼（昭和五十六年）
	秋田 (1/3)	秋田（昭和五十四年）
	山形 (3/4)	山形（昭和五十四年）、鶴岡（昭和五十五年）、酒田（昭和五十六年）
	福島 (16/23)	福島（昭和五十四年）、いわき（昭和五十五年）、郡山（昭和五十六年）、白河（昭和五十七年）、須賀川（昭和五十八年）、会津若松（昭和五十九年）、相馬（昭和六十年）、二本松（昭和六十一年）、喜多方（昭和六十二年）、原町（昭和六十三年）、平（平成元年）、白河（平成元年）、須賀川（平成元年）、郡山（平成元年）、いわき（平成元年）、会津若松（平成元年）、喜多方（平成元年）、相馬（平成元年）、二本松（平成元年）
北陸信越 (22/33) (66.6%)	新潟 (5/8)	新発田（昭和五十四年）、長岡（昭和五十四年）、三条（昭和五十四年）、柏崎（昭和五十四年）、新潟（昭和五十四年）
	富山 (3/4)	富山（昭和五十四年）、高岡（昭和五十四年）、魚津（昭和五十四年）
	石川 (4/4)	七尾（昭和五十四年）、金沢（昭和五十四年）、小松（昭和五十四年）、輪島（昭和五十四年）
	長野 (10)	上田（昭和五十四年）、飯田（昭和五十四年）、諏訪（昭和五十四年）、松本（昭和五十四年）、長野（昭和五十四年）、伊那（昭和五十四年）、佐久（昭和五十四年）、飯山（昭和五十四年）、木曽（昭和五十四年）、茅野（昭和五十四年）
関東 (71/91) (78.0%)	茨城 (4/4)	水戸（昭和五十四年）、日立（昭和五十四年）、土浦（昭和五十四年）、古河（昭和五十四年）
	栃木 (3/5)	足利（昭和五十四年）、宇都宮（昭和五十四年）、佐野（昭和五十四年）
	群馬 (3/5)	前橋（昭和五十四年）、桐生（昭和五十四年）、伊勢崎（昭和五十四年）、太田（昭和五十四年）、高崎（昭和五十四年）
	埼玉 (10)	川越（昭和五十四年）、熊谷（昭和五十四年）、川口（昭和五十四年）、秩父（昭和五十四年）、所沢（昭和五十四年）、飯能（昭和五十四年）、加須（昭和五十四年）、本庄（昭和五十四年）、東松山（昭和五十四年）、春日部（昭和五十四年）
	千葉 (10)	千葉（昭和五十四年）、銚子（昭和五十四年）、市川（昭和五十四年）、船橋（昭和五十四年）、館山（昭和五十四年）、木更津（昭和五十四年）、松戸（昭和五十四年）、野田（昭和五十四年）、茂原（昭和五十四年）、成田（昭和五十四年）
	東京 (11)	八王子（昭和五十四年）、立川（昭和五十四年）、武蔵野（昭和五十四年）、三鷹（昭和五十四年）、青梅（昭和五十四年）、府中（昭和五十四年）、昭島（昭和五十四年）、調布（昭和五十四年）、町田（昭和五十四年）、小平（昭和五十四年）、日野（昭和五十四年）
	神奈川 (11)	横浜（昭和五十四年）、川崎（昭和五十四年）、横須賀（昭和五十四年）、平塚（昭和五十四年）、鎌倉（昭和五十四年）、藤沢（昭和五十四年）、小田原（昭和五十四年）、茅ヶ崎（昭和五十四年）、相模原（昭和五十四年）、厚木（昭和五十四年）、大和（昭和五十四年）
甲信 (9/11) (81.8%)	山梨 (2/3)	甲府（昭和五十四年）、富士吉田（昭和五十四年）
	静岡 (7/8)	静岡（昭和五十四年）、沼津（昭和五十四年）、富士（昭和五十四年）、清水（昭和五十四年）、島田（昭和五十四年）、藤枝（昭和五十四年）、掛川（昭和五十四年）
北陸 (5/7) (71.4%)	富山 (2/3)	富山（昭和五十四年）、高岡（昭和五十四年）、魚津（昭和五十四年）
	石川 (3/4)	七尾（昭和五十四年）、金沢（昭和五十四年）、小松（昭和五十四年）
東海 (34/44) (77.3%)	愛知 (9/14)	瀬戸（昭和五十四年）、豊橋（昭和五十四年）、岡崎（昭和五十四年）、一宮（昭和五十四年）、半田（昭和五十四年）、津島（昭和五十四年）、碧南（昭和五十四年）、刈谷（昭和五十四年）、豊田（昭和五十四年）
	岐阜 (3/5)	大垣（昭和五十四年）、高山（昭和五十四年）、多治見（昭和五十四年）
	三重 (3/5)	四日市（昭和五十四年）、津（昭和五十四年）、伊勢（昭和五十四年）
近畿 (46/61) (68.7%)	滋賀 (3/4)	大津（昭和五十四年）、彦根（昭和五十四年）、長浜（昭和五十四年）
	京都 (3/6)	京都（昭和五十四年）、宇治（昭和五十四年）、舞鶴（昭和五十四年）
	大阪 (10/13)	大阪（昭和五十四年）、堺（昭和五十四年）、岸和田（昭和五十四年）、豊中（昭和五十四年）、池田（昭和五十四年）、吹田（昭和五十四年）、泉大津（昭和五十四年）、高槻（昭和五十四年）、守口（昭和五十四年）、枚方（昭和五十四年）
	兵庫 (11/16)	神戸（昭和五十四年）、姫路（昭和五十四年）、尼崎（昭和五十四年）、明石（昭和五十四年）、西宮（昭和五十四年）、洲本（昭和五十四年）、芦屋（昭和五十四年）、伊丹（昭和五十四年）、相生（昭和五十四年）、豊岡（昭和五十四年）、加古川（昭和五十四年）
	奈良 (3/4)	奈良（昭和五十四年）、大和高田（昭和五十四年）、橿原（昭和五十四年）
	和歌山 (3/4)	和歌山（昭和五十四年）、御坊（昭和五十四年）、田辺（昭和五十四年）
中国 (24/31) (66.7%)	鳥取 (2/3)	鳥取（昭和五十四年）、米子（昭和五十四年）
	島根 (2/3)	松江（昭和五十四年）、浜田（昭和五十四年）
	岡山 (5/8)	岡山（昭和五十四年）、倉敷（昭和五十四年）、笠岡（昭和五十四年）、玉野（昭和五十四年）、津山（昭和五十四年）
	広島 (9/11)	広島（昭和五十四年）、呉（昭和五十四年）、尾道（昭和五十四年）、三原（昭和五十四年）、福山（昭和五十四年）、竹原（昭和五十四年）、東広島（昭和五十四年）、府中（昭和五十四年）、三次（昭和五十四年）
	山口 (3/4)	下関（昭和五十四年）、宇部（昭和五十四年）、山口（昭和五十四年）、萩（昭和五十四年）
四国 (27/35) (80.3%)	徳島 (3/4)	徳島（昭和五十四年）、鳴門（昭和五十四年）、阿南（昭和五十四年）
	香川 (3/4)	高松（昭和五十四年）、丸亀（昭和五十四年）、坂出（昭和五十四年）
	愛媛 (11)	松山（昭和五十四年）、今治（昭和五十四年）、新居浜（昭和五十四年）、伊予（昭和五十四年）、八幡浜（昭和五十四年）、宇和島（昭和五十四年）、大洲（昭和五十四年）、西条（昭和五十四年）、川之江（昭和五十四年）、三島（昭和五十四年）、松前（昭和五十四年）
	高知 (10)	高知（昭和五十四年）、中村（昭和五十四年）、宿毛（昭和五十四年）、須崎（昭和五十四年）、土佐清水（昭和五十四年）、安芸（昭和五十四年）、南国（昭和五十四年）、土佐（昭和五十四年）、香美（昭和五十四年）、四万十（昭和五十四年）
九州 (34/77) (60.3%)	福岡 (7/13)	福岡（昭和五十四年）、久留米（昭和五十四年）、大牟田（昭和五十四年）、飯塚（昭和五十四年）、直方（昭和五十四年）、八女（昭和五十四年）、田川（昭和五十四年）
	佐賀 (3/4)	佐賀（昭和五十四年）、唐津（昭和五十四年）、武雄（昭和五十四年）
	長崎 (3/5)	長崎（昭和五十四年）、佐世保（昭和五十四年）、島原（昭和五十四年）
	大分 (3/4)	大分（昭和五十四年）、中津（昭和五十四年）、日田（昭和五十四年）
	宮崎 (3/5)	宮崎（昭和五十四年）、都城（昭和五十四年）、延岡（昭和五十四年）
	熊本 (3/5)	熊本（昭和五十四年）、八代（昭和五十四年）、荒尾（昭和五十四年）
	鹿児島 (11)	鹿児島（昭和五十四年）、鹿屋（昭和五十四年）、出水（昭和五十四年）、川内（昭和五十四年）、加治木（昭和五十四年）、枕崎（昭和五十四年）、指宿（昭和五十四年）、霧島（昭和五十四年）、名瀬（昭和五十四年）、徳之島（昭和五十四年）、沖永良部（昭和五十四年）
沖縄 (1/1) (100.0%)	沖縄 (1/1)	那覇（昭和五十四年）

都道府県別・連絡協議会	会議所名
	北見、青森、八戸、一関、仙台、石巻、気仙沼、秋田、山形、鶴岡、酒田、福島、いわき、会津若松、郡山、白河、須賀川、喜多方、相馬、二本松、原町、平、水戸、日立、土浦、古河、宇都宮、足利、佐野、前橋、桐生、伊勢崎、太田、高崎、川越、熊谷、川口、秩父、所沢、飯能、加須、本庄、東松山、春日部、千葉、銚子、市川、船橋、館山、木更津、松戸、野田、茂原、成田、八王子、立川、武蔵野、三鷹、青梅、府中、昭島、調布、町田、小平、日野、横浜、川崎、横須賀、平塚、鎌倉、藤沢、小田原、茅ヶ崎、相模原、厚木、大和、甲府、富士吉田、静岡、沼津、富士、清水、島田、藤枝、掛川、富山、高岡、魚津、金沢、七尾、小松、輪島、長野、上田、飯田、諏訪、松本、伊那、佐久、飯山、木曽、茅野、岐阜、大垣、高山、多治見、津、四日市、伊勢、大津、彦根、長浜、京都、宇治、舞鶴、大阪、堺、岸和田、豊中、池田、吹田、泉大津、高槻、守口、枚方、神戸、姫路、尼崎、明石、西宮、洲本、芦屋、伊丹、相生、豊岡、加古川、奈良、大和高田、橿原、和歌山、御坊、田辺、鳥取、米子、松江、浜田、岡山、倉敷、笠岡、玉野、津山、広島、呉、尾道、三原、福山、竹原、東広島、府中、三次、下関、宇部、山口、萩、徳島、鳴門、阿南、高松、丸亀、坂出、松山、今治、新居浜、伊予、八幡浜、宇和島、大洲、西条、川之江、三島、松前、高知、中村、宿毛、須崎、土佐清水、安芸、南国、土佐、香美、四万十、福岡、久留米、大牟田、飯塚、直方、八女、田川、佐賀、唐津、武雄、長崎、佐世保、島原、大分、中津、日田、宮崎、都城、延岡、熊本、八代、荒尾、鹿児島、鹿屋、出水、川内、加治木、枕崎、指宿、霧島、名瀬、徳之島、沖永良部、那覇（330）

【編集後記】

はじめに、プロック大会の開催日をいただいた為に、報告書の一部を割愛したことに対してお詫び申しあげます。全国からの住所的な寄稿のためとはいえ、締切を時間をさいてまとめた筆者の方は、編集する側としても苦しい選択だったことをご理解ください。

総務委員会の伊藤委員長の方は、後日研修委員会で執筆に小冊子をつくるとのことですので、委員長以下四名分に留めました。

「一般的について経済人は「話すことは苦にしないが、書くことは苦手」などようです。その人の性格や職業、趣味などによって違ってきますが、物事を話すようにみる人と、書くようにみる人がいます。どちらが良いとは言えませんが「書くようにみると話すことが的確になる」そんな気がします。

いくら立派な話でもやたら長かったり、同じことを繰り返していたのでは聞く方の耳になります。話す場合は「一度書いて要点をまとめて話す」大事な点をする時こそ必要です。